



## 令和6年度 全体研修交流会を開催しました

3月21日に宮古市にて、令和6年度の全体研修交流会を開催しました。三陸ジオパークの各市町村の関係者や認定ガイドの皆さんが参加し、年に一度の顔を合わせての交流会は今回も各地からの一品持ち寄りも楽しみに、地域協議会での活動やガイドの取組報告などを中心に進め、それぞれの情報交換の場になりました。

また当日には令和5年度の研究助成成果発表会をオンラインで開催し、両氏から以下のテーマで発表していただきました。

「大船渡層群産と宮古層群産の軟体動物化石に基づく前期白亜紀の環北太平洋古生物地理区の成立過程の考察」

東京学芸大学 松川正樹氏

「唐桑層群における上部ジュラ系一下部白亜系炭素同位体比層序とU-Pb放射年代」

東北大学 高嶋礼詩氏

後半ではグループディスカッション〈ジオパークと地域資源を組み合わせた事業を考えようワークショップ〉を行いました。より具体的な対象資源が示されると各々のジオメニューであれこれと組み立て、これまでになかった斬新なアイデアが次々と発表されていました。

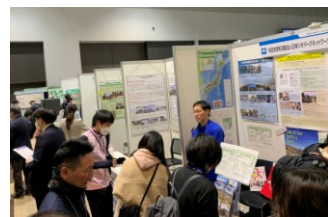


ガイドが企画したイベントの事例紹介も好評



6グループに分かれてアイデア出しあひ中

## 仙台防災未来 フォーラム



3月8日に仙台市で開催された「仙台防災未来フォーラム2025」で、JGNの防災ワーキンググループの東北地域の4つのGP（栗駒山麓、蔵王、磐梯山、三陸）合同で「JGNにおける防災活動」と題して発表とブース展示をしました。

## 《仙台城址にみる震災伝承》



『東日本大震災の記憶』という看板に当時の被災状況が多言語で表示

## 「もーりいのさんりくジオ話」

三陸ジオパーク専門員の盛合秀がお届けします

2月2日から3日の2日間、山口県のMine秋吉台ジオパークで開催された「地球時間の旅」プロジェクト第5回研修会（テーマ：サステナブルツーリズム）に参加してきました。

研修会では、各ジオパークの取組紹介、秋芳洞・秋吉台等でのフィールドワークを踏まえ、来訪者のサステナブルなマインドを醸成する事業を考えるワークショップを行うという流れで進められました。

参加して特に印象に残ったのが、秋芳洞の洞内環境の保全に関する取組です。三陸では龍泉洞にて照明植生軽減のための調査研究が行われていますが、秋芳洞でも薬品等を用いた調査研究が進められていました。これらの成果が、日本各地の鍾乳洞の保全につながることを期待したいです。



秋芳洞・百枚皿

また、本研修会のワークショップにおいて、マーケティング分析手法（4C/4P）を活用した事業立案を経験し、このフレームワークを何かに活かさないかと思い、早速三陸ジオパーク全体研修交流会で活用させていただきました。

このような研修や各地のジオパークで学んだことを地域に還元できるように取り組んでいきたいです。今年度も引き続きよろしくお願ひします！

# 宮古湾についてのあれこれ

クルーズパンフレットより

## 宮古港に寄港する外国の大型客船が増えています

今年度、宮古市宮古港の藤原ふ頭には国内・海外クルーズ船が合わせて15隻寄港予定です。これまでで最大の寄港数になり、多くのクルーズ船乗客の方々には、宮古市内の「浄土ヶ浜」や「三王岩」さらには、ツアーに参加していただき「龍泉洞」や「北山崎」といった、三陸ジオパークのサイトを楽しんでいただいています。

クルーズ船が着岸する、藤原岸壁は555メートルの延長があり、県内最長となっています。クルーズ船は、貨物船と比べ深い水深は必要としませんが、船の高さと横幅が大きいので、長い岸壁が必要ですので宮古港は県内ではクルーズ船の着岸に適していると言えます。

宮古市では客船の寄港に合わせて、「みやこポートフェスタ」が開催されています。藤原ふ頭では様々な出店があり、地元グルメや伝統芸能の披露も楽しめます。ぜひ、クルーズ船の寄港日に合わせて足を運んでみてください。



[2025年クルーズ船寄港予定／岩手県宮古市 Miyako City](#)



湾口幅	4.8km
面積	24.1km <sup>2</sup>
湾内最大水深	76m
湾口最大水深	76m
閉鎖度指標	1.02
<※環境省閉鎖性海域ネットより>	

[岩手県 - 岩手県クルーズPR用パンフレット](#)



## 宮古湾の特徴



地理院地図より



環境省閉鎖性海域ネットより

宮古湾は北側に湾口が開いた形をしているのが特徴で、この湾内に宮古港があります。湾の東側には、重茂半島があるため東からの風の影響を軽減してくれます。さらに湾の北側にある浄土ヶ浜のところで波がぶつかり、その南側は比較的波や風の影響を受けにくいので、宮古港は「天然の良港」と言われています。

深いV字の地形をしている宮古湾ですが、三陸ジオパークのエリアのちょうど真ん中あたりに位置し、北部の海成段丘(テラス)の直線的な海岸線から南部のリアスのギザギザな海岸線に変わっていく場所でもあります。様々なジオの要素をあわせ持つ宮古湾の解説は、聞いてみるととても感心することばかりで「なるほど納得」です。三陸ジオパークで実施する認定ガイド講座や一般向け講座「なるてら」で詳しく説明しています。

**編集後記：**桜の季節がやってくると、それまで大地の中で出番を待っていた色とりどりの花たちも次々と顔を出し、咲きそろってきます。暖かくなっても寒い日があると花の楽しめる期間が長くなるので、開花時期がずれているはずの花が同時に並んで咲いていて、今年はとてもきれいです。

震災後に当時ボランティアの皆さんと始めた花壇の活動も、地域の皆さんと地道に続けて今年で10年目になります。色を失ったまちの風景が、全国からの支援をうけて少しずつ変わっていきました。震災復興支援でご縁のあったみなさんが再訪してみようかなと、思い出すことがあればうれしいです。 ～と～

## 三陸ジオパーク推進協議会

〒027-0072

岩手県宮古市五月町1-20

(宮古地区合同庁舎2階)

TEL:0193-64-1230

FAX:0193-64-1234

info@sanriku-geo.com

https://sanriku-geo.com/

Facebookはこちら

